第３　問題作成部会の見解

１　出題教科・科目の問題作成の方針

○　人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら，先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては，倫理的諸課題について，倫理的な見方や考え方を働かせて，思考したり，批判的に吟味したりする問題や，原典資料等，多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答結果

第１問　本問では，他者と意見が食い違い，対立してしまった際に，議論すべきか否かという場面をもとに，源流思想の多様な側面に触れ，思考や理解を深めていくことを目的とした。また，形式的には冒頭にやや短い，問題設定のみの会話を置き，問５～問８において，その問題を資料や会話とともに考えていくという形式にすることで，場面設定と設問が有機的かつ自然に連関するよう意識した（前半部の問１～問４に単純な知識問を固めたのも，問５～問８の中で場面設定と直接的にかかわる設問を連続的に解くことができるよう，そしてその中で受験者が場面設定について集中的に考えることができるようにするための工夫であった）。また，作問にあたっては，古代ギリシア思想，中国思想，キリスト教，イスラーム教，インド思想についての基本的な知識・理解を満遍なく問うよう配慮し，資料についても，できる限り多くの分野の資料を用いることを意識した。以上のような取り組みの中で，高校生に対しては，意見対立に際して議論することの意味や価値，またあえて議論しないことの意味や価値を，源流思想の知識や資料をもとに考え，自らの人生や生活にも活かしてもらいたいというメッセージを届けるよう心掛けた。

各小問について。問４は，議論を行う上で重要となる「真理」に関する知識を問う問題であったが，正答率が非常に低く，結果的に厳密で正確な理解を問う問題となった。また，③のＪ．Ｓ．ミルに関する記述は，分野横断的に宗教と近現代の思想との関連の理解を問う選択肢であるとの評価を得た。問５は『自省録』の資料読解とストア派に関する知識を問う問題であり，場面設定とは有機的に連関していたものの，資料の引用部が短く，内容的な深まりをもたせることができなかった。問６は，『老子』と旧約聖書「ヨブ記」の資料を読解した上で，会話文を読み，適当でない発言を選ぶものであった。大問全体のテーマや場面設定には引き寄せられているものの，資料そのものの引用が短く，内容が薄いため，二つの資料やその特性を生かすことができていない。紙幅の制限などを考慮すると，こうした資料比較問題のあり方については，今後の課題となってくるであろう。問７は，『スッタニパータ』の資料読解と仏教に関する知識を組み合わせた問題であった。資料そのものは大問のテーマや場面設定と強く関係しているとともに，内容的にも深みのあるものであったが，知識を組み合わせたことによって，難易度が下がってしまったと思われる。資料読解のみで問題を構成するべきであった。問８は会話の流れから文脈に当てはまる選択肢を選ぶ問題であったが，これによって大問全体の趣旨やメッセージを受験者に対して表現することを目指した。

第２問　日本における理想（あるべき姿）について調べるという学習場面を設定し，授業での会話や生徒のレポート，資料の読解を通して，倫理の基本的な知識を押さえつつ，理想とともに生きる人間のあり方について考えさせることを目指した。

各設問については，上の学習場面と関連した出題となること，および大学入学共通テストで求められる資質・能力を問うことを意識して，各領域と時代をバランスよく出題することを心掛けた。全体の趣旨を問うた問８のみ正答率が高くなったが，他はおおむね標準的な正答率となり，全体として適切な難易度であった。

問１は古代日本人の宗教観・倫理観についての基本的な理解を問う設問，問２は十七条憲法について，単に暗記した用語を活用するのではなく，その語が意味する内容を問う設問とした。問３は，明恵，ブッダ，禅僧の修行の様子を写真資料として提示して，仏教者の修行のあり方について考えさせることを意図した設問。時代も地域も異なる写真資料を活用し，授業改善のメッセージを意図した本設問は，「意欲的な問題」として評価された。本居宣長の真心をめぐる思想を，生徒の日常場面に即して判断させた問４は，「思想は生きているものであるということを伝えると共に，生徒の学習改善につながる良問である」との評価を受けた。問題作成の苦労は大きかったが，今後もこのような設問を増やしていきたい。問５，問６は，それぞれ近世の思想家，近代の思想家についての正確な理解を問う設問。いずれも基本的な知識を問うたつもりだが，特に問６は予想以上に正答率が低かった。高校現場には，近代の思想家に関しても事績や思想内容に踏み込んだ学習機会を確保することを期待したい。問７は，西田幾多郎と親鸞の思想についてのやや踏み込んだ理解を求める設問とした。高校評価より「時代の異なる人物を取り上げてそれぞれの思想の理解を問う意欲的な設問」との評価を受けた。高校の授業でも，今後はより横断的な学習がなされることを期待したい。問８では，阿部次郎の『三太郎の日記』を読ませることで，理想が現実を変革させる力を持つのだという大問の趣旨を受験者に伝えることを目指した。今回は大学共通テストになって二回目であったが，趣旨問の作問に関してはいまだ課題が多く，今後も模索を続けていく必要がある。

第３問　「考えること」をテーマに，人間としてのあり方・生き方に関わる課題について，先哲の思想や資料を手掛かりにしつつ，「倫理的な見方・考え方」を働かせて思考させ，理解を深めさせることを狙いとした。「考えること」は，倫理的な見方・考え方のコアにある営みでありつつ，そのはたらきと効用，さらには両義性について，なお深く追究するべき余地を含む，またその価値のある問題であると思われる。さらに，インパクトの強い絵画資料を冒頭に示し，現代における思考停止の問題を直接に扱う設問（問２）や，振り返りのレポートの内容を問う設問（問８）を置くなどして，この問題を解く高校生自身が課題と出会い，学びを得て，課題解決に向けて自分の考えを形成していくことができる（そのようなプロセスを思い描ける）ように工夫した。小問の作成にあたっては，西洋近現代思想の基本的な知識を，地域や時代の偏りなく満遍なく問うよう配慮しつつ，思想の本質的部分を問う問題，現代の課題について考えさせる問題，資料を読解し，読み取った内容と教科書の知識とを関連させる問題，学びのプロセスを批判的・反省的に吟味する問題などを設定し，大問全体で基礎力および思考力・判断力・表現力を総合的にはかることができるような問題となるよう心掛けた。リード文，小問ともに文章量が多くなり，その面での受験者への負荷がやや大きいものとなった一方，倫理的な見方・考え方についてのメッセージ性があり，倫理という科目で重視されているものが伝わるものであったとの評価を得た。

各設問について，問１，問３，問４は基礎基本の知識を問うごく標準的な問題であったが，それらと別に，問５，問６では，キーワードの単なる暗記では対応できない，思想の本質的な部分を問う形の設問を置いた。問５は比較的正答率が高かったが，問６はかなり低かった。いたずらに細かい知識の詰込みを要求しているように誤解されるのは避けねばならないが，

一人の思想家に着眼しつつ，その思想がどのような要素から構成され，それぞれがどんな関係のもとにあるかを精確に理解しているかを問うことは，知的財産を正しく継承するという観点から不可欠のものである。難易度とのバランス，および問い方について，さらに吟味してゆきたい。問７と問８は資料（原典および会話文）読解の問題であるが，いずれも単なる読解問題になってしまわないよう，工夫を加えた。問７では，デューイの資料を読み取ることに加えて，読み取った内容をデューイに関する知識と関連させて問う形とした。正答率は高く結果的には平易な設問となったが，国語的な読解力のみ，あるいは資料の読み取りのみでは正答できない，知識を前提としつつ思考力・判断力・表現力等を問う形式を工夫することは求められていることである。問８は，二つのリード会話文を振り返り，大問全体をまとめる役割の問題である。レポートを読むことによって，ⅡとⅢの会話文のつながりを整理するとともに，高校生Ｆの思考の過程，学びのプロセスを確認することができる問題として評価された。やや難易度の高い問題だったようだが，思考の過程を振り返り，適切に概念化するということは倫理的な見方・考え方の根幹に触れるものであり，単に文量が多かったことに起因するもの（単なる国語力の問題）ではないと考えている。

第４問　「未来世代に対する責任とは何であり，それがあるという根拠は何か」という現代的主題を扱った。「用語の暗記だけでは正答できない思想内容の正確な理解を求めたり身近な事例から考察・分析させたりする設問など，思考力・判断力を試す良問が目立つ」という評価とともに，「資料等の文量が多く時間配分が難しい」という指摘も頂いた。

各設問については，主題を意識しつつ，共通テストで求められる資質・能力を問うことを目指し，現代の倫理的諸課題，青年期の課題の各分野をバランスよく出題することを心掛けた。得点率は全体的に少しだけ高かったが（６割強），設問によりばらつきがあり，問３，問５，問７，問９は正答率が高く，問１，問４，問６は低かった。問１は，未来世代の責任に関する知識と文章の文脈の理解を組み合わせて回答させる設問であったが，知識を問うaが難しかった。受験者に思想家をキーワードのみで暗記するのではない学習を期待して問題作成したが，注意していきたい。問２は，デジタル・デバイドの具体例を挙げさせる問題で，指摘を受けたように「身近なことに置き換えて判断させる問題が増えていくことが，自分の事として考えさせるきっかけになる」という趣旨で出題した。しかし結果として，「基礎的基本的な知識を問う」ものだという指摘を頂いた。発達や養育についての知識を問う問３は，従来のセンター試験の形式を踏襲したシンプルな４択問題であり，また正答のみ心理分野以外からの出題だったためか，正答率が高くなった。設問の形式を調整したり，実生活での問題と組み合わせたりするなど，暗記しただけでは解けないよう工夫する必要がある。環境や世界と人間との関係についての知識を問う問４は，「メルロ=ポンティとレオポルドは，高校の授業でも十分触れられず戸惑った受験者も多かっただろう」という指摘を受けた。注意する必要はあるが，二者の思想の重要性を踏まえて，指摘を受けたように「基礎的基本的な知識の問」として出題したつもりである。ガンディーの不当な支配をめぐる思想についての知識を問う問５は，指摘を受けたように，彼の非暴力不服従の概念を正確に捉えていないと回答できないように作問した。しかし正答率は高かったので，今後は設問の形式を工夫したい。気候変動問題に対する倫理原則の応用を問う問６は，問２や問８とともに，論理的な力を試しており，「日ごろより思考の訓練を促す点で，学習者によいメッセージを与えている」という評価を頂いた。「半ば常識」という指摘も頂いたが，正答率は４割台半ばであった。自国の将来や社会についての調査の図をもとに分析的思考をさせる問７では，「諸資料を活用し，必要な情報を読み取り，倫理的諸課題をとらえる」力を問うた。図を二つ組み合わせる

などの工夫を行ったが，丁寧に判別すれば正答できるとの指摘を頂いた。各レベルでの道徳的視点を事例に落とし込むことができるかを問う問８は，「倫理的な見方や考え方を働かせて，論理的に思考する」力を問うた。高校からは「倫理的な題材資料を読み取り，論理的に考えれば正答は難くない。」との意見を頂いたが，正答率は５割強と，高くはならなかった。資料を正しく読み取り，現実社会の事例について論理的に考える能力を問うことができたと思われる。冒頭の会話文および資料（小説の要約）を踏まえた会話を読みながら穴埋めをさせる問９では，「倫理的諸課題を多面的・多角的に考察した過程や結果を，理由や根拠に基づいてまとめる」力を問うた。

３　出題に対する反響・意見等についての見解

高等学校教科担当教員や教育研究団体より，試験問題の内容・範囲，試験問題の分量・程度，試験問題の表現・形式等について，多面的に意見・評価をいただいている。

以下，これらの意見・評価について，本部会の見解を述べる。それぞれの大問と設問については，上に個別的に見解を記述しているので，ここでは，全般にわたる指摘について述べたい。

高等学校教科担当教員からは，「前年に比べれば難化といえるが，全体の難易度は標準であろう。いずれの大問も出題内容・分野がバランスよく取り上げられ，思考停止や未来世代への責任などの現代的課題が示されたところに，試験問題を通して若い世代に考えさせようとする出題者の意図が読み取れる」という高評価を得た。「難化」については，昨年の問題の平均点が他科目に比べて１０点以上高く，得点調整の対象になったことにかんがみ，従来のレベルになるよう努めた結果であったと判断する。

試験問題の表現・形式については，「現代社会が直面する課題や倫理的判断をテーマにした設問は，倫理を単なる歴史的事項で終わらせず，特に思想内容を具体的な生活問題などに転用して考えさせる問いが倫理を学ぶ意義に照らして大変有効である」との良い評価を得た。しかし他面，「国語的な読解力のみで，あるいは資料の読み取りのみで正答できるのではなく，知識を前提としながら論理的思考力を問うなどの形式を工夫すれば，倫理の学びのおもしろさを伝え，説明的な授業からの脱却を促すメッセージとしての役割を果たすことができる」との指摘も受けており，この点を今後の課題として，いっそう良い問題を作るべく努力していく所存である。

また関係教育研究団体からは以下のような肯定的な意見をいただいた。「学習指導要領にのっとり，基礎的基本的な知識を確認する問や確かな基礎的基本的な知識に基づき資料等を読み込み「倫理」で学んだ思考力や判断力を駆使して考えて解く問を中心に構成されている。平易でありながら考えて解く工夫がなされている点は評価される。」

４　ま　と　め

今回は２回目の共通テストであり，問題作成部会はコロナウイルス感染予防をしながらの問題作成だったため問題作成に当たり多大な困難に直面した。そのような状況下で努力して作った倫理の問題に対していただいた肯定的評価は，今後の問題作成に向けて大きな力となるものである。しかしそれは同時に，その長所をさらに伸ばしていくべき課題でもある。基本的な知識の確認，思考力・判断力・表現力等を問うこと，高校生の学びの指針となるだけでなく高校生への明確なメッセージとなること，大学人としての叡智に裏付けられた質の高さを維持すること等の課題達成にさらに取り組んでいきたい。またその際，問題作成方針に沿いつつ，受験者に，教科書で学習した基本的な知識を踏まえ，多様な資料を活用して考察させる質の高い問題を作っていきたい。